

# グルモハル

JAPANESE SCHOOL  
OF MUMBAI

TEL 022-6694-0630

12 SEP/2025 NO 5

## 「海外子女文芸作品コンクール」に全校で応募！その3

校長 佐藤 義朗

今回は、小学部4年生の詩と中学部の俳句・短歌・詩を紹介します。インドに住んで、今までの概念を打ち破った驚きや発見について言葉を巧みに操り、喜怒哀楽などの感情や、風景、心情を深く表現することができました。

- ・暑い日に 人がたくさん 汗だらけ 7年 K M
- ・あめの中 走り抜けるよ シーリング 9年 K K
- ・午後三時 雨露弥漫かな 帰路につく 9年 K M
- ・よるねるも 雷雨でねれず モンスーン 9年 R F
- ・雨の中 車は停まり 黒い雲 9年 G H
- ・グルモハル 朱に照らされ 此れ燃ゆる 9年 K M
- ・雨季が去り 暑さ和らぐ 神無月 雲一つなく あざやかな空 8年 M W
- ・インドの空 夕日の沈む ドタバタと 賑やかな街 声が響く 8年 Y J

インドの神様

四年 R M

なんでだろう  
こんなに  
神様  
多いのは



一人の心

四年 C M

車のまどから見た  
夏のある日  
ゴールデンシャワーが緑の中で  
私はまた見た  
やはり一人だった  
毎日見ているうちに  
一人さみしくちっていった  
私はなぜ  
心のいたみを  
感じるのだろうか

お初にお目にかかります

中学部一年 S O

インド行き 時をたどって九か月前  
急加速して 過ぎていった  
初めましての アブロード  
初めましての ノラ犬たち  
熱苦しいほどの ポリウツド  
日差しって もはや日刺し  
私にだけ 当たってない？

辛いもの好きが 甘く見て 即後悔  
インド人とまどう ノースパイス  
スパイシーでこのうこうな日々 もたれちゃう  
時計はてっぺん ねかせてくれない  
お祭りさわぎ  
でも これがインド  
三年間 よろしくね





# インドで活躍する日本人！講演会



「インドで活躍する日本人」講演会。今回はユーチューバーの坪和寛久様にお越しいただき、7月14日（月）に行いました。坪和様はインドを中心に世界各国の屋台文化を旅し、YouTubeチャンネル【坪和の世界ローカル飯】などでその魅力を発信していらっしゃいます。インド滞在歴は10年で、ストリートフードを通じてその土地のリアルな暮らしを伝える映像を制作。登録者数は70万という人気コンテンツとなっています。ユーチューバーは憧れの職業。講演会が始まる前からみんな興味津々で、多くの子もたちが今か今かと講演会が始まるのを待っていました。



「好きになったインドのイメージを明るく伝えたい」「食べたり人とおしゃべりしたりすることが大好き」「人を喜ばせることが大好き」ということで、食文化を中心とした映像を発信していらっしゃるそうですが、1日に8食食べることもあって大変なときもあるそうです。それでも、「面白かった。」「楽しかった。」「また見たい。」と言ったコメントをもらうと、「また作るぞ。とやる気がわくんだ。」とおっしゃっていました。



また、インドで生活していて心がけていることはたくさんあるけれど、その一つが「ポジティブ思考」ということでした。「インドは暑くてうるさい、と感じる時には太陽も人も元気だと考えるようにする。」「不便なことがあれば、工夫するチャンスがあると考える。」「失敗したら、いい勉強になった。と思うようにする。」など、楽しく生きていくための知恵がそこにはありました。そして、自分らしく生きることを大切にしているとおっしゃるその言葉に、だからこそあれだけの人気チャンネルが作れるんだと思わず納得させられました。



## 【児童の感想より一部抜粋】

・私は大人になったら歌手かユーチューバーになろうと思っています。もしユーチューバーになったら坪和さんみたいに大人気になりたいです。YouTubeの銀の盾を見せてくれてありがとうございます。毎日たくさんの食べ物を食べて大変ですね。私もインドにいるからインドのことをみんなに教えたいです。(小学部3年)

## ☆ 進路学習会 開催 ☆

7月11日（金）に中学部1年生から3年生の生徒が進路学習会を行いました。特別講師は東京電機大学高等学校の阿部裕之先生。オンラインで東京とつなぎ、生徒たちの進路選択に関わる質問に丁寧に答えてくださいました。阿部先生はなんとムンバイ日本人学校（当時はボンベイ日本人学校）の40年前の在校生。当時の体験談も含め、貴重なお話を伺うことができました。



## 【生徒の感想より一部抜粋】

・阿部先生のお話はどれもとても興味深く、将来のためになるお話ばかりでした。特に印象に残っているのは「高校に行った時の自分の位置」です。私だったら実力相応校を選ぶなと思っていたのですが、阿部先生は挑戦校を選ぶとおっしゃっていて、そういう道もあるんだと気づかされました。将来について迷ってしまったら阿部先生のお話を思い出して、自分のことは自分で決められるよう頑張りたいと思います。(中学部3年)